

子の口唇口蓋裂と母の子への愛着の関連は？

Tsuchiya *et al.* Association of cleft lip and palate on mother-to-infant bonding: a crosssectional study in the Japan Environment and Children's Study (JECS). *BMC Pediatr.* 2019. doi:[10.1186/s12887-019-1877-9](https://doi.org/10.1186/s12887-019-1877-9)



【はじめに】

口唇口蓋裂はもっとも多い目に見える部位の先天異常で、口唇口蓋裂児の出産は産後の母親の心理状態にネガティブな影響を与えることが報告されています。しかし、口唇口蓋裂児の出生が母親の子に対する愛着へ与える影響については十分に明らかになっていません。本研究では、大規模出生コホート調査のデータを用いて両者の関連を調べました。

【調査項目】

口唇口蓋裂の子ども（1歳児）とその母親、79,140組を対象としました。母親の子どもへの愛着評価には赤ちゃんへの気持ち質問票（MIBS-J）※を使用し、愛着の度合を数値的に評価しました。

※赤ちゃんへの気持ち質問票（MIBS-J）：子どもへ抱く気持ちについて調査する質問票です。得点が高いほど、子どもへの否定的な感情が強いことを示します。

【結果】

子どもへの愛着障害と子どもの口唇裂/口蓋裂頻度の関連

		子が健常	子が口唇裂/口蓋裂	p Value
<35歳, 初産	愛着障害(%)	13.8	7.0	0.076
	オッズ比	1.00	0.44	
<35歳, 経産	愛着障害(%)	9.8	10.1	0.946
	オッズ比	1.00	1.03	
≥35歳, 初産	愛着障害(%)	13.7	16.7	0.836
	オッズ比	1.00	1.14	
≥35歳, 経産	愛着障害(%)	10.0	24.3	0.018
	オッズ比	1.00	2.51	

※オッズ比が1よりも小さいほどリスクが低く、大きい人ほどリスクが大きいことを示します。
※P-Valueの値が小さいほど結果が確からしいことを示します。

79,140組の親子のうち、211組に口唇口蓋裂が認められました。全体として口唇口蓋裂の出生と愛着障害の間には関連はありませんでしたが、35歳以上かつ経産婦では、口唇口蓋裂の出生と愛着障害の間に相関関係が認められました。

【この調査でわかったこと】

35歳以上の経産婦では、口唇口蓋裂児の出生と母親の愛着障害に相関関係があることが分かりました。よって、子どもの発達や不適切な養育に繋がる子への愛着障害への対応が、特に口唇口蓋裂児を持つ35歳以上の経産婦のケアに重要である可能性が示されました。